

主要行等の令和 8 年 3 月期決算の概要

1. 損益の状況（グループ連結ベース）

- 令和 8 年 3 月期は、国内貸出金の残高増加と利回り上昇を主因とする国内資金利益の増加や、資産運用や融資関連の手数料等の役務取引等利益の増加等により、当期純利益は前年同期比 32.7%の増益（59,742 億円）。

（単位：億円）

	R6 年 3 月期	R7 年 3 月期	R8 年 3 月期	前年同期比
業務粗利益	129,174	137,944	163,694	25,749
資金利益	57,256	68,418	78,803	10,385
役務取引等利益	46,098	50,437	58,300	7,863
その他業務利益	9,378	▲ 4,574	7,248	11,822
うち債券等関係損益*	▲ 5,602	▲ 12,581	▲ 5,331	7,250
経費	▲ 79,481	▲ 86,791	▲ 95,978	▲ 9,187
業務純益	50,845	51,746	69,879	18,133
コア業務純益*	36,311	42,441	49,041	6,600
コア業務純益*（除く投資信託解約損益）	34,798	40,448	48,377	7,930
与信関係費用**	▲ 10,106	▲ 5,975	▲ 9,621	▲ 3,645
株式等関係損益	5,282	14,218	15,424	1,206
親会社株主に帰属する当期純利益	33,788	45,023	59,742	14,720

*債券等関係損益、コア業務純益については銀行単体ベース。**与信関係費用について、正の値は益を、負の値は損を表す。

（参考）	R6 年 3 月末	R7 年 3 月末	R8 年 3 月末
貸出金（末残）***	371.5 兆円	380.6 兆円	408.1 兆円

***貸出金は銀行単体ベースの銀行勘定計。

2. 不良債権の状況（銀行単体ベース）

- 不良債権残高は令和 7 年 3 月末に比べやや増加、不良債権比率は低下。

	R6 年 3 月末	R7 年 3 月末	R8 年 3 月末
不良債権残高	3.9 兆円	2.9 兆円	3.0 兆円
不良債権比率	0.93%	0.67%	0.64%

3. 自己資本比率の状況（グループ連結ベース）

- 国際統一基準行の総自己資本比率、Tier1 比率、普通株式等 Tier1 比率は、令和 7 年 3 月末に比べ低下。

- 国内基準行の自己資本比率は、令和 7 年 3 月末に比べ横ばい。

（国際統一基準行：4 グループ）

（国内基準行：3 グループ）

	R7 年 3 月末	R8 年 3 月末
総自己資本比率	17.07%	16.44%
Tier1 比率	15.36%	14.80%
普通株式等 Tier1 比率	13.19%	12.51%

	R7 年 3 月末	R8 年 3 月末
自己資本比率	11.46%	11.42%

（注1）記載金額・比率は、四捨五入して表示。

（注2）グループ連結ベースは、みずほFG、三菱UFJFG、三井住友FG、三井住友トラストG（以上、国際統一基準行）、リソナHD、SBI新生銀行、あおぞら銀行（以上、国内基準行）を対象とする。

（注3）銀行単体ベースは、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、リソナ銀行、三菱UFJ信託銀行、みずほ信託銀行、三井住友信託銀行、SBI新生銀行、あおぞら銀行を対象とする。

（注4）各グループ公表資料等より、金融庁作成（公表数値の定義はグループにより異なる場合がある）。

（注5）過去の計数については、一部グループの業績修正等により、過去の当庁公表数値と異なる場合がある。